現代俳句岡山

第52号

令和4年9月発行

令和四年度 定期総会

令和四年四月三十日（土）岡山県ゆうあいセンターに於いて出席者、委任状を含め五十七名の議決権があるものと見なされ開催された。

木村ゆきこ会長のあいさつ「コロナ禍の中での二年間の総会中止、そして世界ではウクライナ、ロシアの悲惨な状況において憂慮すべきことばかりですが、平和の有難さを感じつつ俳句活動を進めましょう」と述べられる。

総会に先立ち令和二年度、三年度の新会員の紹介、挨拶があり歓迎の拍手が送られた。

前田宏事務局長を議長に選出し、次の議題について審議された。

一、令和三年度事業報告

事務局長より活動内容の報告

令和三年度会計報告

薄和子会計担当より収支決算の報告及び、黒瀬紘子会計監査担当より監査報告

二、令和四年度事業計画

事務局長より計画案の提示

①定期総会と持寄り句会

四月三十日　岡山県ゆうあいセンター

②第二十七回岡山県現代俳句大会

十月二十三日　岡山県ゆうあいセンター

③第二十三回吟行会

十一月十三日　吉備津彦神社周辺（岡山市）

④会報発行

・五十二号　令和四年九月

・五十三号　令和五年三月

編集担当より発行予定と原稿協力の要請

⑤役員会　随時

三、令和四年度会計予算

薄会計担当より予算案の提示

以上の議題について議事は円滑に進行、すべての承認を得た。

連絡事項として、第四十回中国地区大会（倉敷アイビースクエア）への参加、第五十九回現代俳句全国大会への投句と参加の要請、現代俳句年鑑への投句の要請、新会員の推薦の依頼のあと、佐野副会長による挨拶により全日程を終了した。

◇総会終了後会員による持寄り句会が開催された。

（前田　宏記）

第40回 中国地区現代俳句大会

とき：令和四年六月十二日（日）
ところ：岡山県倉敷市／倉敷アイビースクエア
新型コロナウイルス感染防止のため紙上俳句大会として実施

入賞作品

中国地区現代俳句大会賞
春兆す湖が力を抜き始む　松江市　野津あつし

中国地区連絡協議会賞
行軍の音は空耳黄砂降る　松江市　黒崎　柊二
春愁をゴシック体に変換す　鳥取市　岡　みずき
帯ぽんと二日の女でき上る　周南市　木村たけま
少年兵桜にされて征きしまま　周南市　藤井　康文

優秀賞

野も山も動詞でありぬ雪解水　宇部市　山口　智子
スケボーの少年春の翼もつ　浅口市　森脇　八重
佛の座少し座っていいですか　周南市　石川　芳己
翅とぢて天道虫に戻りけり　周南市　木村たけま
兜太汀子春星二つ生まれけり　総社市　國富　柿方
春キャベツ明日はフレアスカートで　岡山市　永井麻紀子

秀逸賞

タンポポや大地へ降ろす嬰の脚　勝田郡　髙村　蔦青
宅配のバイク風花連れていく　福山市　守屋　直子
島の春乗せてフェリーの着岸す　倉敷市　秋岡　宣子
菜の花や村中風になっている　下松市　藤井八重子
福笑い畳で死ぬってこんな顔　宇部市　中塚紀代子
堂守の大き足跡涅槃雪　岡山市　前田　宏
耕しの山より高く鍬を振り　山口市　河野　悦子
髪切ってランナーになる夏初め　鳥取市　滝本　勤
麦の風どの穂も光こぼしつつ　鳥取市　寸村　紀子

久保純夫賞

住む人の亡き表札や紫木蓮　岡山市　三村　榮一
ぶらんこの子にそれぞれの到達点　岡山市　三宅　章文
雪達磨だんだん本音語り出す　津山市　豊田　級衣
摘みしものごったに分けて長閑なり　呉　市　筈谷　美保
コロナ禍やチリメンジャコの目が数多　光　市　竹本チヱ子
桜餅みんな女神になっている　下松市　橘　美泉
補聴器に心音混ざる春の雨　鳥取市　滝本　勤
翅とぢて天道虫に戻りけり　周南市　木村たけま
少年兵桜にされて征きしまま　周南市　藤井　康文
手のひらに無二の曲線寒卵　真庭市　天野　光暉

山口県現代俳句協会会長賞（久行保徳選）
噛みふくむ水に味あり花祭　岡山市　片岡　陽子

島根県現代俳句協会会長賞（月森遊子選）
八月の深海底はレクイエム　周南市　藤井　康文

広島県現代俳句協会会長賞（川崎益太郎選）
水仙になれたら兜太にもなれる　宇部市　中塚紀代子

鳥取県現代俳句協会会長賞（植垣規雄選）
春愁をゴシック体に変換す　鳥取市　岡　みずき

岡山県現代俳句協会会長賞（木村ゆきこ選）
一途とは執着でした雪解川　岡山市　柏瀬眞理子

勉強会高得点作品

19点　春満月となりのとなりみなひとり　岡山県　木村ゆきこ
15点　影もたぬほどのふくらみ猫柳　山口県　三野　公子
14点　封印を解いてしまおう花菜風　鳥取県　岡　みずき
14点　婿どのと一献まゐる雛の夜　鳥取県　中田　七重
13点　デッサンに彩のせてゆく春の山　岡山県　國富　柿方

13点　饒舌は時に失言亀鳴けり　広島県　塚本みや子
12点　猪垣やいま外なのか内なのか　岡山県　土屋　鋭喜
11点　早蕨に首長竜を見つけたり　鳥取県　藤原　博志
11点　春光を纏いて山のふくらみぬ　岡山県　岩田　志乃
11点　昇降機静かに止まる春の月　広島県　竹味千賀子
11点　力まない余生となりし冬銀河　山口県　堀口　孝子
10点　反り返る裸木無題なる青空　岡山県　小西　瞬夏
9点　目借時アイドルがみな同じ顔　鳥取県　足立　六歩
9点　地に弾むときにもつとも落椿　山口県　木村たけま
9点　生まれたら未来を目指せしやぼん玉　岡山県　永禮　宣子
8点　ふるさとは野のふところや蓬摘む　島根県　月森　遊子

山口県現代俳句協会会長賞（久行保徳選）
春満月となりのとなりみなひとり　岡山県　木村ゆきこ

島根県現代俳句協会会長賞（月森遊子選）
手をつなぐやうに形見の手袋を　鳥取県　中田　七重

広島県現代俳句協会会長賞（川崎益太郎選）
風船を掴みそこねし指の先　岡山県　岩田　志乃

鳥取県現代俳句協会会長賞（植垣規雄選）
腰下ろす穴ぼこぼこと春の土手　岡山県　鈴木　文子

岡山県現代俳句協会会長賞（木村ゆきこ選）
封印を解いてしまおう花菜風　鳥取県　岡　みずき

第29回西東三鬼賞 入賞作品（岡山県関係のみ）

秀逸賞
三鬼忌の赤い猫なら連れて行く　永禮　宣子

入　選
おでん種のやうな人生里暮らし　髙村　蔦青
駅頭に三鬼と不舎や夏の雲　沼本　養卯

第31回ヒロシマ平和祈念俳句大会 入賞作品（岡山県関係のみ）

特別選者賞
植垣規雄　選
八月の駅におおきな靴の跡　花房八重子

川崎益太郎　選
平凡な母を母とし冷奴　倉見　雯匝

木村ゆきこ　選
先頭にただついてゆく蟻の列　万波　照世

久行保徳　選
反戦の声嗄らしをり広島忌　難波　正夫

新会員候補者推薦のお願い

新会員候補者は、会員各位の個人推薦により選出されることになります。

会員のみなさまの周辺に、協会員に相応しい方がおられましたら、所定の「入会申込書」により、是非、ご推薦くださるようお願いいたします。

推薦いただいた方は、会長の承認を得て会員となっていただきます。

なお、「入会申込書」は随時受け付けますが、入会日は入会手続き終了後となります。

現代俳句協会

会員句集紹介

句集　飛梅　國定義明

・令和四年三月六日発行
「秋」発行所
國定義明氏にとって平成十二年以来の第四句集。

母恋へば父も出てくる春の夢
受験期の飛梅になれ孫娘
コロナ禍に人体漂流着ぶくれて
点滴棒杖に春田の雨を聴く
春一番家一軒の古戦場

津山市文化連盟

綱俳句会「くすのき賞」を受賞

津山市の綱俳句会は津山市文化連盟により、文化のまちづくり推進に貢献した個人や団体を顕彰する二〇二一年度「くすのき賞」に選ばれ、三月十五日津山市役所東庁舎での表彰式に代表四名が出席し、表彰状や市木のクスノキ製の楯などを授与されました。

綱俳句会は、新興俳句の旗手・西東三鬼（一九〇〇～六十二年）の直弟子の俳人・白石不舎（本名哲＝故人）が一九九〇年に設立、その死後二〇一二年四月から二〇二一年三月まで永禮宣子（現顧問）が代表、そして二〇二一年四月から右手敦子代表へと受け継いで現在に至っています。

綱会員十五名の活動は、月二回隔週土曜日に開く句会、年三回の句誌「綱」の発行、「西東三鬼賞」表彰式の翌日に衆楽園で行われる俳句会「曲水の宴」の運営補助、市内の小学校での十年以上にわたる俳句教室など、若い世代への文化継承に努めています。

右手代表は受賞の挨拶で「白石先生達が地域の皆さんと地域の文化を築いて、以来三十年間みんなで頑張ってきました。今後も新しい世代と俳句の楽しみを分かち合っていきたいです」と述べました。

又、令和四年度の西東三鬼賞は第三十回という記念すべき回を迎え、ますます多数の応募者が期待されるところです。投句締切は十月末なので、皆さまもふるってご応募ください。

尚、綱俳句会の現状は、いずこも同じ会員の高齢化の問題を抱えていて、活気のある新人の勧誘などに、会員それぞれが努力しているところです。

（黒瀬琢葉）

第30回 西東三鬼賞募集案内

賞

大賞　西東三鬼賞　1名　賞状及び副賞50万円
秀逸　10名　賞状及び副賞2万円
入選　30名　賞状及び記念品
選考委員　寺井谷子　久保純夫　黒岩徳将

応募要領

●雑詠5句1組（未発表作品に限る）
●原稿用紙（A4サイズ）に黒インクまたは黒ボールペン
●ワープロ原稿可
●原稿用紙に住所・氏名（ふりがな）・俳号（ふりがな）・職業（または学校名・学年）・生年月日・電話番号を明記

投句料

1組（5句）につき2000円（定額小為替）
※何組でも応募可

締切

令和4年10月31日（月）当日消印有効

発表

令和5年3月初旬（応募者全員に入賞作品集送付）

表彰式

令和5年3月下旬予定

投句および問合せ先

〒708-8501
岡山県津山市山北520
津山市産業文化部文化課内　西東三鬼賞委員会
TEL：0868-32-2121
FAX：0868-32-2154

私の感銘句

原　鈴子選

空間を自在に占めて吾亦紅　右手　采遊

吾亦紅の特徴をうまくとらえていて、その表現にまず心を動かされた。

秋の風にゆられる吾亦紅は、花というにはあまりに地味であるが、私は好きな植物であり、茶花や山野草としても人気の花である。

先の小さい穂状の花が風にゆれるさまを、「空間を自在に占める」との形容に感服。

紋白蝶もつれもつれて祠まで　岸本　順子

蝶はよく二匹がもつれあって飛んでいる。後になり先になり従いてくる蝶といっしょに祠までの道を歩いてきた。

揚羽蝶でなく紋白蝶ということで、祠までの道は山の道ではなく田畑に沿った道であろうと察しられて、のどかな緑の風景が見えてくる。

春の月だれか戻ってくるような　木村ゆきこ

春の朧月は、そういう風に感じさせるものなのだと思う。戻ってくるということは、身近な人である。生きている人か亡くなった人か。淡々とやさしい言葉がなにやら寂しい。

私の感銘句

倉見　英子選

春の暮誰も唄わぬ子守唄　三村　榮一

昭和の暮しは母親が家庭を守り学校帰りの子供を迎え下の子供は負んぶか抱っこで眠りについていたものです。時は移り少子高齢化の現代では子供さんの姿もあまり見られず古き時代の子守唄を懐かしむこの頃です。

曼珠沙華造影剤に浮き上がる　保田　紺屋

医学の進歩は著しいものがあります。大脳の手術もカテーテルで影像を見ながら行われます。作者は造影剤利用の検査中に曼珠沙華を見る思いをされたのでしょうね。体験に基づく表現は鮮明です。

モナリザの眼差しにある恵方かな　右手　采遊

TVのモナリザは疣があると嘆いていますがこちらのモナリザは恵方を向いているとか、前向きな発想に感じ入りました。

私の感銘句

國富　柿方選

ジーンズの穴作為無作為夏来る　万波　照世

近頃の若い人達のファッションはバラエティーに富んでいて楽しい。ジーンズは作業着として作られたものだが今は男女を問わずファッションアイテムの一つになっているようだ。特にお洒落着として様々な工夫が施してある。作者はその工夫のあとを鋭い観察力で清々しく躍動的な一句に詠み上げた。

啓蟄や鳥が話してゐるやうな　秋岡　宣子

鳥には鳥語があり簡単な会話が交わせるようだ。「カラ類」の群れの観察から解ったとテレビで見たことがある。虫が地表に出掛ける頃、鳥が虫を餌にするために鳥が情報交換をしているのだろうか、取り合わせの妙によって食物連鎖が詩に昇華した。

春の月だれか戻ってくるような　木村ゆきこ

さやけさをもって月は秋の季語となっているが春の月は朧なるを覚すると云う故に想像をかきたてる。誰か戻ってくるようなと作者の詩情の豊かさ。誰が戻ってくるのだろうか。それは読者に託される。

諸家近詠

霞みたる山脈白竜の吐息
その先は天命まかせ飛花落花
これ以上画角に入らぬ燕子花
鷺の群れ自衛隊の車列過ぐ
梅雨空を仰げばモアイ像のごと

國富　節子

ハーレイに追い抜かれたり花の昼
木堂のゆるす一字柏餅
枇杷太る警策の音こだまして
笹百合や那岐山おろしに揺れどほし
熊蝉の本丸跡を攻めてをり

久保田三千代

埠頭にて佇む亡兄やサングラス
緑陰や杖を頼りに石畳
偶像はいつか地に堕つ春の雷
鳴くこともあるてふ守宮闇の杜
天空の点となりたり揚雲雀

倉見　英子

食卓の談議固まり冷奴
坪庭や一考一歩の雨蛙
髪洗ふとんと昔の艶話
奈良の夏鳥毛立女の紅の衣
生か死か毛虫の渡る車道

國富　柿方

全集のあちこち付箋西東忌
花ミモザ武器の話をする漢
老犬と寝転び仰ぐ春の雲
花びらの余白を満たす空の青
立ち漕ぎの子の正面の大西日

小峠　幸枝

高層を風とかわして初鴉
春吹雪みつまた晒す横野川
ペン立ての太き青ペン夏来る
向日葵や別れの道に立ちつくし
蜘蛛の囲や大空やわくすくい上げ

小西　瞬夏

労働を終へむぢやむぢやと石榴割る
火取虫群れゐるや翅汚しあひ
太陽が近く翅蟻の屍が掃かれ
西瓜食ひ散らす少年真昼を飢ゑ
もの言はぬ日の白桃を剥いてをり

佐藤　千恵

春泥やはじめはほんの遊びから
マネとモネこんがらがりて蔦青し
切り取り線切るや九月の雨の音
遊行期やゆったり崩すモンブラン
湯豆腐のことこと縁深めゆく

黒瀬　琢葉

入院という贈り物春の雨
冷凍車行く戦死者を容れている
戦争はどうなんだおいオニヤンマ
山背負い手負いとなりし蟻の列
豆アジの頭の好きな六年生

繁森　明美

帰省子の話題ゆたかや夜は更ける
半年に二度のワクチン盛夏かな
雷鳴のとどろく夕べ訃報聞く
川遊び小蟹採れたと誇らしく
灯ともせば溢れる想い出走馬燈

渋谷　達磨

羅や痩せたでしようと問われても
十薬の無言の侵攻路地暗し
甚平着て地区の寄り合いよくしゃべり
白鷺の抜き足のあと動かざる
ひまわりの黄にモノクロ戦闘帽

薄　和子

聞きとれぬままに頷くマスクかな
吹かれいて花菜の匂うところまで
つぶやきのかたちでふとる桑の実よ
無言館展眼下にひたひた夏の潮
それぞれに影みなありて大揚羽

佐野　由魚

諸家近詠

鈴木 文子

春惜しむ神話の中に溶け込みて
海馬まだ自粛中なり鳥曇
口だけはまだ達者です時鳥
陵を容れて神山滴りぬ
ワンシーンのようにロケ地を夏燕

髙村 蔦青

その上に魔性の空や花は葉に
万緑や白雲絶えぬ峡の空
物捨てて捨ててやすらか五月尽
漂ひて生きる晩年法師蝉
大夕焼限界村を焼き尽す

竹内 亨佑

母の背と桑食む音と受験の子
いもの花みたいな人と言われけり
花ルッコラナースキャップの笑顔かな
盗み見て日焼けの跡の戻らぬ日
炎天やジンタン終にセイロガン

谷 久乃

トス空に放つ青年麦の秋
昼寝覚め成層圏をはみ出して
書き込みの残る教科書梅は実に
硝子ペンに青這い登る星祭
雷鳴やリンダリンダのリフレイン

塚原 恒子

蛍火の数多飛び交ふ北房地
くれなずむ岬見下ろし枇杷を挽ぐ
向日葵や立ちつぱなしのコンサート
名刹の本堂包む蝉しぐれ
星祭また会へる日を信じつつ

土屋 鋭喜

新涼や第二体操うやむやに
秋の蝉周平器用に生きられず
とくしまる停る空き地の赤のまま
鈴虫も一役歯医者の待合所
夏の果貫ひし種の蒔かぬまま

豊田 級衣

若葉摘むふわりと雲を遊ばせて
雪だるま住所不定になりにけり
彼岸会や何しょんならと亡父の声
とんがって生き抜く力山椒の芽
ニックネームで呼ばれはにかむ五月雛

永井麻紀子

一瞬で関門走り抜けて夏
梅雨の月敗戦投手の肩越しに
白南風やシニヨンの少女駆けて来る
さきほどの泳ぎし烏賊はアヒージョに
夏の空ピアノで紡ぐ「花は咲く」

中野 澄子

陽炎の棲みついてゐる角の家
向日葵の迷路の中を呼びあへり
さくらんぼ夫の歩幅に合はす午後
実家への道が好きなり草の笛
湖に出る道は風道葱坊主

永禮 能孚

夏の夜や仏と二人いる寂しさ
戦前は遠く果物甘く甘く
向日葵や元気印を強いられて
地球老ゆ無駄を重ねし夏暮れて
チチロ虫死ぬ日はビブラートで鳴いて

難波 正夫

何とする蟬の蛻けの百余り
秋立つや雲の流れの右下がり
初秋やひとりで歩くふたり分
ひ弱さは処世の一手糸蜻蛉
余りにも短き一日花野かな

難波 正範

粒ひとつまたひと粒と大豆蒔く
あの位置の積乱雲は雨が来る
われ名づく我の名所の竹落葉
麦飯の味しらぬまま飲む麦茶
かへす波尻もまぶしき夏の浜

令和３年度 会計報告書

自令和３年４月１日～至令和４年３月31日

収入の部

項　目	金額	摘　要
前期繰越金	208,382	
年　会　費	67,000	66名
助　成　金	142,000	66名
育　成　金	10,000	
雑　収　入	55,212	俳句大会残金・吟行残金
合　計	482,594	

支出の部

項　目	金額	摘　要
会報発行費	127,600	会報50・51号
会　議　費	7,077	役員会
通　信　費	55,088	切手・はがき・送料
印刷消耗品費	14,882	コピー代宛名シール
負　担　金	28,400	
雑　費	4,611	振込通知　手数料
次期繰越金	244,936	
合　計	482,594	

上記のとおり報告致します

令和４年４月　日

会計監査　加藤正枝　黒瀬琢磨

会計担当　薄　和子

令和４年度 会計予算

自令和４年４月１日～至令和５年３月31日

収入の部

項　目	金額	摘　要
前期繰越金	244,936	
年　会　費	65,000	
助　成　金	130,000	
合　計	439,936	

支出の部

項　目	金額	摘　要
会報発行費	130,000	会報52・53号
会　議　費	40,000	
通　信　費	60,000	
印刷消耗品費	10,000	
負　担　金	26,000	
予　備　費	173,936	
合　計	439,936	

第二十七回 俳句大会のご案内

日　程　令和四年十月二十三日(日)
時　間　午後一時～午後三時三十分
会　場　岡山県ゆうあいセンター（きらめきプラザ）
会　費　一、〇〇〇円
参加申込　投句と同時にお申し込みください。
作品募集　二句一組（一、〇〇〇円）何組でも可
　　未発表作品に限る
締切り　令和四年八月二十六日(金)必着
送り先　〒七〇三―八二七一
　　岡山市中区円山四四―一
　　薄　和子方
　　「俳句大会事務局」

第二十三回 吟行案内

岡山県現代俳句協会

日　時　令和四年十一月十三日(日)
吟行地　吉備津彦神社周辺（岡山市）
集　合　岡山市立一宮公民館
受　付　十時～
句会場　十二時より
会　費　二、五〇〇円（弁当・会場費・賞品代）
申込先　〒七〇〇―〇九七五　岡山市北区今八―二―二八―三〇一
　　前田　宏
　　ＴＥＬ　〇七〇―五六七二―八〇四一
　　ＦＡＸ　〇八六―二四六―〇七六二
（ハガキ又はＦＡＸでお申し込みください）
申込締切り　十月三十一日(月)　グループでの申し込み可

ご逝去　心よりご冥福をお祈り申し上げます。
福島閑雀様　令和四年六月十二日　享年八十一歳

事務局・編集部だより

▽会報五十二号を予定通りお届けします。会報発行にあたり会員の皆様にはご多用中にも拘らず、快く原稿依頼にご協力頂き感謝申し上げます。

▽秋の吟行会案内を同封致しました。岡山市内では身近でありながら現代俳句協会では開催がなかった吉備津彦神社を計画致しました。

▽先般、ご案内の第二十七回俳句大会の参加もお待ちしています。

▽コロナの追い打ちに猛暑続きですが皆様先ずはご自愛下さい。　（前田　宏）

▽令和四年度岡山県現代俳句協会会費が未納の方へ振込用紙を同封いたしました。ご協力の程よろしくお願いいたします。　（薄　和子）

会報他受贈深謝

各県、各地区より会報、句集等、贈呈いただき有難くお礼申し上げます。

現代俳句岡山・第五十二号

令和四年九月五日発行

発行責任者　木村ゆきこ
発　行　所　岡山県現代俳句協会
編　集　人　前田　宏
事　務　局　〒七〇〇―〇九七五
　　岡山市北区今八―二―二八―三〇一　前田宏方
　　ＴＥＬ・ＦＡＸ（〇八六）二四六―〇七六二